

第6期第3回横浜市子ども・子育て会議 放課後部会 会議録

日 時	令和5年12月1日（金） 18時30分～20時00分
開催場所	横浜市庁舎 18階 みなと5会議室
出席者	明石要一部会長、池田浩久委員、江口和良委員、鈴木裕子委員、高杉陽子委員、松本豊委員、宮永千恵子委員
欠席者	青山鉄兵副部会長、辺見伸一委員、三浦尚美委員
開催形態	公開（傍聴者2人）
議 題	(1) 放課後キッズクラブ・放課後児童クラブの充実に向けた調査の最終報告について

(1) 放課後キッズクラブ・放課後児童クラブの充実に向けた調査の最終報告について

(事務局) 資料5～7に基づき説明

(江口委員) 資料7の5ページのクラブの満足度、13ページの保護者の満足度ともにとても高いことに、これはすごいことだと思います。

10ページのクラブの大人に対する印象として、「やさしい」、「あかるい」、それから「話を聞いてくれる」という印象が子どもたちにあるということは、子どもたちが家に帰って話しており、保護者の皆様もこういったいい結果を出してくださっているのかなと思いました。

一方で、人材不足が大変な問題ということで、優しく、明るく、話を聞いてくれる大人の人たちを確保するというのは本当に大変なことなんだろうなと思います。

調査する中で、資料6の83ページの「学校とのかかわり」に関する課題で、クラブのスタッフの方々が感じているところの中に、「学校との情報共有の場がない、協力関係が薄い」ということがあり、これが大変高い値になっているのは、学校関係者としては本当に申し訳ないなと思っています。

(鈴木委員) 江口委員と全体的には同じような感想を持ちまして、全般的に非常に満足度が高いです。それに加え、回答率も非常に高く、スタッフの皆様が本当に子どもたちのために一生懸命やってくださっているのが子どもたちにも保護者にも伝わっているんだなと感じて、とてもよいと思いました。

課題もありますが、いずれもなかなか難しい課題で、どうしていくのがいいというのを一言では言えませんが、私が見ていて、そうだろうなと思ったことは、まず長期休業期間中の昼食のことで、私が同じ立場の保護者だったら、仕事をしていて、夏休み、冬休み、どうしようというのが、何とかならないのかなと思いますので、そこのニーズに応えられるように考えていけるといいと思いました。

昼食提供について学校給食と同じようにやれるかという点、とてもできないと思います。現在、横浜市は中学校給食は業者から中学校へ配送してもらう仕組みです。それと同じにはできないかもしれませんが、そういうアイデアを生かしながら、何かできるような仕組みはないものだろうかと思いました。

それから、人材確保で大学生の話が出ていました。私も、大学生を指導している立場で、学生たちの中には、こういうことに関心のある学生もいますが、その支援がうまくいっていないのかなと思います。大学生へのアプローチの仕方を考えると、もう少し大学生が協力して、例えば勉強だけ教えに来るとか、それで子どもたちも、そうやって大学生のお兄さんやお姉さんが勉強を教えに来るといって、その時間は勉強に取り組もうかなというようなことも考えられるかもしれないなと思いました。

要配慮児童については、学校現場でも放課後に限らず課題がありますが、そういった子どもへの対応について、さらに研修を充実させていくことでスタッフの方々も関わりやすくなっていくのかなと思いました。

あとは、疑問点ですけれども、40 ページのヒアリング結果の中で、活動場所というところで、学校施設を使用していることから、セキュリティに基づく課題が見られたと。セキュリティに基づく課題というのは具体的にどんなことなのか。それは解決が難しいことなのか、ここでは分からなかったもので、教えてください。

(事務局) セキュリティに関する課題というところで幾つか御意見をいただいている中で、一番多いのが夏休みの学校閉所期間中の対応です。学校の閉所期間中でもキッズクラブは開所しておりますが、普段使っている部屋がセキュリティがかかってしまって使えなくなってしまうようなことがあります。学校と協議して使えるケースもありますが、使えないケースもあります。

あとは校門の電気錠の関係等で、学校の電気錠はついてはいるけれども、キッズクラブ用の門には電気錠がついていないことがあります。

なるべく改善するよう努めておりますが、そういった課題がまだ残っているところがあるためこのような結果となっております。

(松本委員) 3点、なるほどと思ったのは、1つは、満足度の高さです。私も現場で子どもたちの様子を見ていますが、指導者の方も丁寧に扱ってくれますし、子どもたちも十分に楽しんでいると感じています。校庭での遊びなども、広いところで伸び伸びと遊んでいるのを見て、いいなというふうに思っていました。

アンケートの調査結果で、アンケート実施前から話題になっていた朝の預かり、これが意外と、緊急な課題ではないのかなと思いました。最初心配していたほどのニーズが出ていないので、次の課題かなという気がしました。

それから、資料7の15ページでは「長期休業期間中のお弁当づくり」が保護者の負担であると結果が出ています。就労されている保護者にしてみると、その期間だけというのは大変だと思えます。私も先日、中学校に行く機会がありまして、壁に献立表が貼ってあり、結構、素敵な給食が提供されているということを感じました。

お金を払ってでも提供していただきたいという思いがアンケートにも出ておりますので、この辺はアレルギー対応とかが負担にならないければ、少しずつ進めていただいたらいいのかなと思います。

あと、同じページですが、キッズクラブと児童クラブの差が出ているのがここで、「クラブの活動・運営への参加」や「利用料等の経済的負担」が、児童クラブであると。ほかはほとんど差がありませんが、児童クラブの運営をされている方は、それだけの負担感を感じているので、その辺の支援も必要かなと感じました。

(明石部会長) 放課後児童クラブの料金の負担感が高いのは、なぜでしょうか。それは主観的なのか、客観的なのか。

(事務局) 公設民営のキッズクラブは、5時までの利用の方が月額2000円、19時までだと5000円という形になっていますが、民設民営の放課後児童クラブについては、利用料金を各クラブのほうで設定をおり、今年の4月時点で平均の月額は1万7100円となっております。実際に保護者が支払われる金額がキッズクラブと児童クラブで違うため、それがこの結果に表れていると認識しております。

(高杉委員) 子どもがスタッフのことを怖いと思うというアンケート結果があり、これはその子が怒られるというのもあったかと思いますが、周りで怒られる場面を見て、それが怖いと思った子どもたちもいると思うので、周りの子どもたちの配慮も必要だと思いました。

あとは登校前の預かりと20時まで預かってほしいというような保護者のニーズが思っていたよりもあると感じました。これについては、区によって保護者の傾向があるのかどうか。

東京の方面にお勤めの方や遠方にお勤め方の世帯が多い区では、そういうニーズが高いのかもしれないと思いました。

人材不足の話ですが、午後から夜という放課後の時間帯は、働きたい人のニーズと合わないのかなと感じています。

長期休暇中の昼食提供ですが、朝8時から夜の7時まで預かる子どもがいて、長時間子どもがいる中で、おうちの人を作ってくれたお弁当を楽しそうに開けて、好きなものが入っているのを食べて、にこにこして過ごすというのも、子どもの安心感にもすごくつながっていると思っています。保護者としては、それが毎日負担であり、子どもの気持ちと、親の気持ちのどちらもわかり、難しいと感じました。

また、給食費は学校に行かない8月とかも払います。そうすると、クラブでも、昼食提供が始まるとそのお金と給食代も重なるので思っている以上に負担がかかります。進めていくに当たって、保護者が思っているより費用の負担がかかることを心配する可能性があると思いました。

(事務局) 区ごとの違いがあるかどうかというようなお話をいただいたかと思います。資料6の報告書本体の44ページで朝については、区ごとの状況の統計を取っております。有料の場合は、一番少ないのが都筑区で13.7%、港南区が27.1%で最多となっております。これが有料でなければ利用したいを合わせると、同様に都筑区が21.4%で一番低くて、港南区が41.1%で最も高くなっています。

区や地域によつての傾向は明確には見られませんでした。資料6の45ページでは、学校の立地などで通勤時間がかかる場合は朝の家を出る時間が早くなるので、ニーズが高くなったりするのかなという仮説を立てて、クラブから例えば都内に通勤されるような、時間がかかる方ということで、仮に品川駅を置いてみました。このグラフでは平日の朝8時20分に品川駅まで移動する場合に、クラブからどれくらい時間がかかるかで見た結果、時間が長くなるほどニーズが高くなっていました。

通勤で1時間16分以上かかる場合、8時20分に品川駅に着くということは朝7時ぐらいにはクラブを出ないと間に合いません。このような場合、ニーズが高くなっていることが分かったということも補足させていただきます。

(宮永委員) 全体的には、他の委員と同じく児童や保護者の満足度が高い一方で、人材不足という事業所、働く親が増えているという状況ならではの朝の預かりの時間や長期休業中の昼食の提供など課題があると思いました。

気になったのが、今回、障害児もしくは配慮が必要な児童に対する対応について、医療的ケア児の取組が導入されていると思いますが、その方のニーズというのは、この中には含まれていないと思ってよろしいのでしょうか。

(事務局) 医療的ケア児の受入れに関しましては、キッズクラブも児童クラブも昨年度からスタートさせていただいております。各クラブへ看護師を派遣させていただいて、必要な方にサービスが行き届くようにしております。今のところ御要望がある方をお断りしているケースは聞いてはいません。ただ、これから学校でも医療的ケアのお子さんの受入れが進んでいるということで、キッズクラブや児童クラブでもまだまだニーズがあると考えています。保育園でもいろんなお話を聞いておりますので、引き続き個別に御相談があれば丁寧に対応していきます。

(宮永委員) もう1点、資料7の45ページで、今後の施策への提言で、保護者の理解、協力が得られないという部分でやはりと思いました。個別支援学級に所属しておらず、ごく軽度の障害があるかないかというお子さんについて、スタッフの方々も、家庭との連携はどうしたらいいか、学校

との連携はどうしたらいいかとかなり悩まれているんじゃないかと思っております。こちらのほうも今後支援をお願いします。

(池田委員) 私が感じたところは3点あります。

1つ目は、児童アンケートの満足度で、「子どもたちの大人が怖い人はいますか」という項目です。クラブで児童に直接書いてもらうという実施方法かと思いますが、無回答率がほかの設問に対して多いと感じました。特に一番下、「話を聞いてくれる、聞いてくれない」の項目もキッズクラブでは23%が無回答というところで、その場では回答がしづらかったかなと思いました。おおむね満足なので、それはいいんですが、回答しづらさというのもあるのかなというふうに感じました。

2つ目は、子どもたちに直接ヒアリングができています。体育館にエアコンがぜひ欲しいなとかという声は本当によく分かるなと思っています。暑さのあまり3か月くらいなかなか外では遊べない日が増えていきますし、これからもきっと暑くなっていくんだろうなと思うと、体育館の過ごしやすさというのはこれから要検討なのかなと思います。エアコンをつけるというのは難しいかもしれないんですけども、せめて風通しがもっとよくなると遊びづらいなということを感じました。

3つ目はクラブや子どもたちの過ごす場所での宿題についてです。宿題の負担が保護者は感じているというところ、これは私も子どもたちが帰ってきたら宿題をよく見ているんですけども、負担というより宿題をやる時間が課題になるのかなと思います。

家に帰ってきて、夕飯を作りながら、その間に宿題をやってもらう、2年生ぐらいまではそんなに問題はないけれど、4年生ぐらいになってくると、宿題に係る時間が増え、あつという間に御飯を食べる時間とかお風呂に入る時間とか、宿題をする時間で夜が埋まってしまうなというところがあるので、負担というよりも、時間が課題なのかなと感じた次第です。

(明石部会長) 保護者の満足度が9割、子どもの満足度が8割ということで、基本的に横浜市がやっている放課後施策が保護者からは概ね受け入れられてきているなと思います。子どもたちの満足度をあげるには、子どもたちの意見にあった、体育館にクーラーを入れるなどいろいろありますけれども、そういう努力はしていきたいなと思います。

他の委員もおっしゃったように、朝の対応、長期休業の昼御飯の問題を今後どうクリアするかというのは、今後検討の課題かなというのはあるかと思っています。

人材不足というのは早く手を打たないと困ると思います。非常に運営者は困っていると思います。そこで、大学とタイアップして、教育援助体験で単位を出す、そういう活動が必要かと思えます。大学はものすごく地域貢献に熱心ですから、やってくれるのではというのが一つの案です。

もう一つは、資格取得のための補助金を用意するとか。例えば千葉県では、看護師さんと保育士

さんと介護士さんを養成するために、保育士さんの場合、2年間、定員70名で補助金を出しています。1年か2年間で学校に行き、資格を取れますよという形が2点目です。

3点目は、医療的ケアのお子さんのことを看護師さんがやってくれています。これは当然医療的ケアを必要とするお子さんというのは、学校でも人員配置をしっかりとしないといけないと思います。そういうスタッフを融通できると非常にお子さんも助かるし、保護者も助かる。そういうのもやってくれればいかなと感じました。

最後に資料7の45ページにもありますが、DXの推進。DXを使って、ボタン一つでいけるようにつくってあげる。そこまでしてくれると非常に助かる、そういうことが今回のアンケートから見えてきたかなと思います。

いずれにせよ、非常にいい結果で、個人的には喜んでるので、本当に皆さんのお力で何とかここまで来たかなという感じはします。

(事務局) DXの取組ですが、今年度から取組を開始しました。クラウドサービスを使いまして、まず、クラブと市役所、区役所の情報連携を進めていきます。クラブのほうで負担を感じている補助金の関係の事務についても、今年度、モデル区を2つ選びまして、そのクラブに対して補助金の申請の最初の部分にDXを導入するという形で行っております。そちらを今年度試行で行いまして、その結果を踏まえて、全区展開という形で想定をしております。また、そのほかの補助金の事務もDXでできないかというところを検討を進めていく次第でございます。

(明石部会長) わかりました。

(事務局) 本日はありがとうございました。

資料	資料1 横浜市子ども・子育て会議放課後部会 委員名簿 資料2 横浜市子ども・子育て会議放課後部会 事務局名簿 資料3 横浜市子ども・子育て会議条例 資料4 横浜市子ども・子育て会議運営要綱 資料5 放課後キッズクラブ・放課後児童クラブの充実に向けた調査結果について 資料6 「横浜市放課後キッズクラブ・放課後児童クラブの充実に向けた調査業務委託報告書」 資料7 「横浜市放課後キッズクラブ・放課後児童クラブの充実に向けた調査業務委託報告書概要」
特記事項	—